

電気工学科, 情報工学科, 建築学科		国語			
学年	第1学年	担当教員名	館下徹志		
単位数・期間	3単位	週当たり開講回数	2回	通年	必修科目
授業の目標と概要	古今の言語文化に触れ、それを読み解くことを通して論理的な思考と記述の基礎固めを目指す。言葉のきまりに従って言語表現を正確に音読するとともに、現代日本語を正しく表記する作法を身につける。 釧路高専学習・教育目標(F)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを読み進めながら、その内容について考え、発表、傾聴、記述、討論によって、言語文化に関する理解を深める。授業中も国語辞典を活用して語彙を豊かにし、読解力や表現力に自ら磨きをかけてほしい。</li> <li>・現代日本語の正しい表記法を学ぶための書き取り課題に毎週取り組んでもらう。</li> <li>・年に一度、提示された課題図書を読み込んだ経験に基づいてまとめた「読書レポート」の提出を求める。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語表現の文脈に沿って、物事を論理的に理解することができる。</li> <li>・根拠を示しつつ、自らの考えを論理的に述べることができる。</li> <li>・テキストの本文を正確に音読できる。</li> <li>・日本語を表記する上でのきまりを理解し、実践することができる。</li> </ul>				
成績評価方法	定期試験の成績(90%)と「読書レポート」の内容(10%)により評価する。				
テキスト・参考書	テキスト:「国語総合」(筑摩書房) 参考書:「カラー版 新国語便覧」(第一学習社) 「古文の読みかた」(藤井貞和 岩波ジュニア新書) 「ちゃんと話すための敬語の本」(橋本治 ちくまプリマー新書)				
メッセージ	論理的な言語表現の基礎となる十分な語彙力と日本語の表記能力を身につけよう。聴く・話す・書くという言葉を用いた活動は、他人への気づかいを基盤にしなければ、独善的な振る舞いとなってしまふ。積極的に授業に参加しながら、他者とのコミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容					
授業項目			授業項目ごとの達成目標		
1 ガイダンス(1回) 2 「白夜」 星野道夫(7回) 3 「児のそら寝」 宇治拾遺物語(6回) 4 日本語表記練習(7回)			1 授業の進め方や到達目標が理解できる。 2 筆者の関心や感受性に沿って文章の意味を読みとることができる。 3 歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを理解し、正しく音読できる。 4 登場人物の行動の理由が理解できる。 5 原稿用紙に日本語を丁寧に記入できる。 6 国語辞典を活用できる。 7 正答に従って正確に自己添削ができる。		
前期中間試験			実施する		
5 漢文訓読入門(5回) 6 「考える身体」 三浦雅士(6回) 7 「かくや姫誕生」 竹取物語(5回) 8 日本語表記練習(8回)			5 訓点の意味を理解し、漢文を正確に音読できる。 6 訓点に従って書き下し文を書くことができる。 7 接続詞・接続語の働きが理解できる。 8 論述に即して客観的なものの見方ができる。 9 文中の漢字を正確に読むことができる。 10 歴史的仮名遣いに注意して、正しく音読できる。 11 登場人物の心情が理解できる。 12 同音異義語の使い分けができる。 13 正しい筆順で漢字が書ける。		
前期期末試験			実施する		
9 「羅生門」芥川龍之介(10回) 10 「ある人、弓射ることを習ふに」 徒然草(4回) 11 日本語表記練習(7回)			9 正確に音読できる。言葉の意味が理解できる。 10 登場人物の心理の動きが理解できる。 11 正確に音読することができる。 12 筆者の主張内容が理解できる。 13 送りがなの原則が理解できる。 14 行頭・行末の禁則が理解できる。		
後期中間試験			実施する		
12 「ボランティアの報酬」 金子郁容(6回) 13 「万葉集・古今集・新古今集」(6回) 14 「朝三暮四」 列子(4回) 15 日本語表記練習(8回)			12 論理的な文章表現における具体例の役割を理解する。 13 段落構成の意味を理解する。 14 和歌の音数律と特徴が理解できる。 15 正しく音読し、書き下し文をかくことができる。 16 故事成語の意味が理解できる。 17 文脈に応じた適切な漢字をあてることができる。		
後期期末試験			実施する		

機械工学科, 電気工学科, 建築学科		地理			
学年	第1学年	担当教員名	中西秋雄		
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目
授業の目標と概要	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。 釧路高専目標(A-1)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	教科書・地図帳・ノート、配布プリントなどを忘れないこと。 新聞の時事の記事やテレビの教養番組などに興味関心をもち、世界の様々な地域の人々の生活や文化を理解する姿勢。				
到達目標	現代世界の地理的な諸課題についての考察はもとより、急速に進展する国際社会の下で、異文化理解の大切さと国際的な交流と協力を深め、国際平和に貢献する資質と姿勢を身につけることができる。				
成績評価方法	合否判定：定期考査（80％）、課題レポート（20％） 最終評価：合否判定の評価に授業中の取り組み（±10％）を含める。				
テキスト・参考書	教科書：地理B - 世界をみつめる - (教育出版) 参考書：「新詳高等地図」(帝国書院) 「新編ビジュアル地理」(とうほう)				
メッセージ	これから21世紀の世界はますます国際化が進展します。 仕事や旅行で海外に行く機会も多くなります。 異文化理解の大切さを共に学ぼう！				
授業内容					
授業項目			授業項目ごとの達成目標		
1. 地理を学ぶ(世界の国々の大観)(1回) 2. 世界の国々(国家と人種・民族・宗教)(1回) 3. 様々な国家=移住者を中心に建国された(1回) 4. (1)複合民族社会アメリカ合衆国(1回) 5. (2)アメリカ合衆国の農業(1回) 6. (3)アメリカ合衆国の工業(1回) 7. アメリカ企業の世界化(1回)			世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連づけて追究し、異文化を理解し尊重することができる。 更に、世界の人種・民族及び人間の生活・文化の特色を国家とも関連付けて理解するとともに、人間を取り巻く環境の多様性についても理解することができる。		
前期中間試験			実施しない		
8. ベルギーの民族と産業(1回) 9. インド - 歴史・文化と自然環境(1回) 10. インド - 工業・農業(1回) 11. 南アジア地域協力連合(SAARC)の国々(1回) 12. (1)ヨーロッパの特色 - 自然環境・民族(1回) 13. (2)EU - 統合への歩み(1回) 14. (3)EU - 新しい統合と問題点(1回) 15. (4)ヨーロッパの東西 - 東欧の民族問題(1回)			近隣諸国の生活・文化を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察し、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することができる。 また、世界の人々の生活の地域的特色とその動向を農業や工業などの産業と関連づけて理解することができる。		
前期末試験			実施する		
16. アフリカ - 自然、歴史的背景(1回) 17. 北アフリカ - 産業のうごき(1回) 18. サハラ以南のアフリカ(1回) 19. オセアニアの地域的特色(1回) 20. アジア太平洋国家に変身するオーストラリア(1回) 21. 進展する国家間の協力と統合(ASEAN)(1回) 22. 中国 - 人々の生活、農業(1回) 23. 中国 - 対外開放政策の進展(1回)			現代世界の地域構成を理解し、現代世界の国家、国家間の協力と統合などの動向を理解することができる。		
後期中間試験			実施しない		
24. 大韓民国の人々の生活と日本(1回) 25. 変化するロシア連邦(1回) 26. エネルギー資源と環境問題(1回) 27. 新エネとエネルギーシフトの動き(1回) 28. 地球温暖化とCO2排出量取り引き(1回) 29. 世界の人口・食料問題(1回) 30. 世界の民族問題(1回)			環境・エネルギー問題、人口・食料問題などの地球的課題を通して現代世界が抱えている諸問題を理解することができる。 また、日本や近隣諸国が取り組んでいる地球的課題を追究し、それらの現れ方は国によって異なっていることや、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを理解し、日本の役割などを考察できる。		
後期末試験			実施する		

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科, 建築学科			物理			
学年	第1学年	担当教員名	松崎俊明, 浦家淳博, 森太郎			
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	2回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	物理現象を実体験として理解し, それを数値的, 数式的に捉える能力を養う. 科学的思考力を養うとともに, 学ぶことの楽しさを実感してもらいたい. 特に1学年では, 電気, 波動の諸現象を扱う. 釧路高専教育目標A(30%)C(70%)					
履修上の注意 (準備する用具・ 前提となる知識等)	四則演算(分数・比を含む)の筆記計算力が必要となる. 副教材の問題を電卓を使わずに解ける様, 自習もして下さい.					
到達目標	電気・波動の具体的な諸現象を視覚的, 数値的に捉えることができる.					
成績評価方法	合否判定: 4回の定期試験の合計点数が240点以上であること.					
テキスト・参考書	教科書: 物理I(東京書籍, 文部科学省検定教科書) 参考書: ニューステップアップ物理I(東京書籍) チャート式シリーズ新物理I(数研出版)					
メッセージ	用語や記号を覚えてしまうことで, 授業の内容の理解も早まります. 授業は, 新しい概念を得るだけでなく, 誤った概念や先入観を正す場です. 学生の皆さんの楽しい雰囲気, 活発な発言が内容を豊かにします.					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
科学量の表し方(5回) 電流・電圧・抵抗・電力(5回) 演習(4回)			有効数字や単位の概念, グラフの描き方を理解できる。 オームの法則, 電力の数値計算ができる。			
前期中間試験			実施する			
電磁力(4回) 電磁誘導(4回) 情報を伝える電気(3回) 演習(3回)			力・電流・磁界を3次元的に理解できる。 誘導起電力の向きを理解できる。 アナログ・デジタル信号の違いを説明できる。			
前期期末試験			実施する			
音・光の性質(2回) 正弦波(4回) 横波と縦波(2回) 波の重ね合わせ(3回) 演習(3回)			音と光が波動であることを理解できる。 正弦波の式, グラフ, $v=f$ を総合的に理解できる。 縦波の横波表示が理解できる。 波の重ね合わせの作図ができる。			
後期中間試験			実施する			
波の反射・屈折(2回) 波の干渉(2回) ドップラー効果(2回) 固有振動(2回) レンズ(2回) 演習(4回)			屈折の法則を用いた数値計算ができる。 水面波の干渉を作図できる。 ドップラー効果が理解できる。 弦や気柱内の固有振動を図示できる。 レンズを通した光路を図示できる。			
後期期末試験			実施する			

建築学科		化学				
学年	第1学年	担当教員名	坂田澄雄			
単位数・期間		3単位	週当たり開講回数	2回	通年	必修科目
授業の目標と概要		物質の性質を理解し、その本質を明らかにするのが、化学の目的です。化学は、物理学、生物学などと密接に関連して発展してきました。物質に関する研究成果が積み重ねられ、私たちはさまざまな形で化学の恩恵を得ています。このような観点に立って学習をします。 釧路高専教育目標 (A)70% (C)30%				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		化学を学ぶには、まず、注意深く現象を観察し理解する必要があります。疑問を持ち追及する心構えを持ってください。前期は週1回2時間、後期は週2回4時間です。				
到達目標		原子や分子の構造とその変化、イオン、酸化・還元反応、反応熱、および有機化学の基本的な項目を理解できる。				
成績評価方法		4回の定期試験で評価します。				
テキスト・参考書		化学1 三省堂 基本セレクト 化学1(数研出版)、チャート式 解法と演習 化学1(数研出版)、プログラム化学1(秀文堂)				
メッセージ		積極的に授業に参加して欲しい。				
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
身の回りの化学 (1回) 物質の成分と元素 (3回) 元素と単体・化合物 (3回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの物質について理解できる。</li> <li>物質の分離と精製について、どんな方法があるかを習得できる。</li> <li>単体と化合物について理解できる。</li> </ul>			
前期中間試験			実施する			
物質の構成粒子 (3回) 物質質量と化学反応式 (5回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の構成粒子にはどんなものがあるか理解できる。</li> <li>原子、イオン、分子について理解できる。</li> <li>原子量・分子量と物質質量、溶液の濃度、化学反応の量的関係について理解できる。</li> </ul>			
前期期末試験			実施する			
化学反応と熱 (6回) 酸と塩基の反応 (5回) 酸化・還元反応 (5回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>熱と熱量とはなにか、反応熱と熱化学方程式の関係について式を作成できる。</li> <li>酸と塩基の種類が理解できる。</li> <li>酸化と還元の意味・酸化数について理解できる。</li> </ul>			
後期中間試験			実施する			
電池と電気分解 (4回) 無機物質 (6回) 非金属元素 (4回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>電池が化学反応であることが理解できる。</li> <li>無機物質の種類と特徴が理解できる。</li> </ul>			
後期期末試験			実施する			

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科, 建築学科			保健			
学年	第1学年	担当教員名	館岡正樹, 三島利紀			
単位数・期間	1単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	生涯にわたって心身の健康を保持増進するための実践力の育成をする。(計画的に運動に親しむ資質や能力との関連性を含む)・生涯学習の意義の明確化につながる。釧路高専教育目標(E)40%(F)60%					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	課題学習においてはプレゼンテーションをするのでパワーポイントを使って発表する予定のグループはノート型パソコン及びCD-ROMまたはメモリー等を準備すること。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性に関する正しい知識と理解ができる</li> <li>・課題学習においてテーマの決定からプレゼンテーションを行うまでの計画性と実践力を身につけることができる</li> </ul>					
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性教育は「私の出生秘話」と題して、両親、兄弟、祖父母等を通してのレポートを作成(30%) ワークシート2枚(各10%)</li> <li>・課題学習のプレゼンテーションにおいては、教員の評価(35%)と他グループによる学生の評価(15%)を合わせて総合評価を行なう。</li> </ul>					
テキスト・参考書	教科書; 現代保健体育(大修館) 資料; 図説現代保健体育(大修館)					
メッセージ	5年生において、所属する学科の専門教育を生かした研究の集大成としての“卒業研究”があります。課題学習はその導入と考えております。常に、研究心を持って、何事にも積極的に取り組んでください。					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス、アンケート (2回)</li> <li>・男女の性と性機能の違い (ワークシート) (2回)</li> <li>・妊娠 (1回)</li> <li>・ビデオ学習・ワークシート (2回)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の授業の流れと注意事項</li> <li>・同性及び異性の身体の違いを理解することができる</li> <li>・受精から出産直前までの正しい知識を学ぶことができる</li> <li>・各項目でワークシートを作成し授業内での個々の理解度を認識し、性に関する正しい知識を持つことができる</li> </ul>			
前期中間試験			実施しない			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産(ビデオ学習, ワークシート) (2回)</li> <li>・沐浴体験、妊婦疑似体験(ワークシート) (2回)</li> <li>・人工妊娠中絶(ビデオ学習, ワークシート) (2回)</li> <li>・性感症とその予防 (1回)</li> <li>・まとめ (1回)</li> </ul> 《課題》 ・レポート提出			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命誕生についての正しい知識を学ぶことができる</li> <li>・体験によって育児を実感することができる</li> <li>・人工妊娠中絶の実態と生命の尊さを感じることができる</li> <li>・身近で起こりうる病気であることを認識し、その実態と対処法を理解することができる</li> <li>・「私の出生秘話」と題して、両親、兄弟、祖父母等を通してのレポート作成することにより自己肯定感を養うことができる</li> </ul>			
前期期末試験			実施しない			
課題学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々がテーマを選択・決定する (1回)</li> <li>・同じテーマの者が集まり2~5人による班を編成する (1回)</li> <li>・現代保健体育(大修館), 図説現代保健体育(大修館)をテキストとし、各グループでテーマに沿った情報収集を行なう (5回)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを使い、自分の興味を引き出すことができる</li> <li>・人とコミュニケーションを取りながら班を作ることができる</li> <li>・リーダーが中心となり、グループ内で協力しながら資料収集を計画的に実行できる</li> </ul>			
後期中間試験			実施しない			
課題学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで情報収集したものをまとめ、資料を作成する (4回)</li> <li>・10分程度のプレゼンテーションを行う (パワーポイントの使用可) (4回)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報資料をまとめ、発表用の資料を作ることができる</li> <li>・グループ内で協力して作業することができる</li> <li>・役割分担をし、他の人にわかりやすいプレゼンテーションができる</li> <li>・他のグループの発表を聞き、評価することができる</li> </ul>			
後期期末試験			実施しない			

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科, 建築学科			体育		
学年	第1学年	担当教員名	恐神邦秀, 三島利紀, 館岡正樹		
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目
授業の目標と概要	各種の運動はその種目によりそれぞれ異なった特性を持っている。こうした特性の違いに応じた練習・修得の過程でルール・マナー・安全に対する態度・知識を会得すると共に、体力を高め運動を楽しむ態度を養う。また、協調性・社会性を身につける事を期待する。釧路高専教育目標 (E)50%(F)50%				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	講義は全て実技である。実技の実習場所は体育館の外、屋外(野球場・サッカー場・アイスホッケー場)で行うが、実技にふさわしい服装(運動着・運動靴)で参加する事。				
到達目標	個々人の運動能力や体力に格差が有る事から、一概に設定出来ないが、個々人の体力に応じ、積極的に各種目に参加することができ、運動能力を高めると共に協調性・社会性を身につける事ができる。				
成績評価方法	運動への取り組み状況・意欲(30%)運動能力等(70%)とし、総合評価を行う。したがって運動が不得手だからといって、評価が下がる事はない。積極的に取り組む事が肝要。				
テキスト・参考書	参考書; イラストによる最新スポーツルール(大修館)				
メッセージ	屋外での種目は、天候により適宜屋内種目に変更する。また運動が得意な人、不得手な人等個人差があると思われるが、得意・不得手にかかわらず積極的に参加する事。				
授業内容					
授業項目			授業項目ごとの達成目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス、レクリエーション (1回)</li> <li>・バレ-ボール (基本練習) (2回)</li> <li>バレ-ボール (応用ゲーム) (2回)</li> <li>・体力診断テスト (1回)</li> <li>・運動能力テスト (1回)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の授業の流れと注意事項</li> <li>・オーバー、アンダーハンドパスを正確に行うことができる。</li> <li>・サーブを相手コートに入れることができる。</li> <li>・チーム内で協力しラリーの多いゲームができる。</li> <li>・自己の体力を確認することができる。</li> <li>・自己の運動能力を確認することができる。</li> </ul>		
前期中間試験			実施しない		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボール(基本練習) (2回)</li> <li>ソフトボール(ゲーム) (2回)</li> <li>・サッカー (基本練習) (2回)</li> <li>サッカー (ゲーム) (2回)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本となるスローイングとキャッチングができる</li> <li>・フライやゴロをキャッチすることができる</li> <li>・基本的なルールを理解し、相互審判をしながらゲームを進めることができる</li> <li>・インサイドキック(パス)が正確にできる</li> <li>・身体のいろいろな部分でトラップができる</li> <li>・インサイドかインフロントでシュートを打つ事ができる。</li> <li>・ゲームに必要なルールを理解できる</li> </ul>		
前期期末試験			実施しない		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・格技 柔道 基本練習 (2回)</li> <li>柔道 応用練習 (2回)</li> <li>柔道 試合 (1回)</li> <li>・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (2回)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼儀作法を理解し、重んじることができる</li> <li>・受身ができる</li> <li>・足技(送り足払い・出足払い)、投げ技(大腰・体落とし・背負い投げ)、寝技(けさ固め・横四方・上四方)ができる</li> <li>・禁止事項を守り、怪我に注意しながら試合ができる。</li> <li>・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体種目・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる</li> </ul>		
後期中間試験			実施しない		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (3回)</li> <li>・アイスホッケー(基本練習) (3回)</li> <li>アイスホッケー(ゲーム) (2回)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体種目・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる</li> <li>・スケートニングができる</li> <li>・ストップができる</li> <li>・パス及びシュートができる</li> <li>・怪我に注意しながらゲームを行うことができる</li> </ul>		
後期期末試験			実施しない		

情報工学科, 建築学科		英語			
学年	第1学年	担当教員名	片岡務		
単位数・期間	6単位	週当たり開講回数	3回	通年	必修科目
授業の目標と概要	教科書とその他の自主教材(文法用教材、文法練習問題、速読用教材、英検用練習問題など)を活用して、基礎的な単語・熟語、基本的な文法知識の習得、平易な英文の読解力の向上、易しい英語による表現力の養成、またリスニング教材を適宜用いて聞き取り能力の向上を図る。そして以上のことにより、論理的な文章を英語で記述したり英語でコミュニケーションを行えるようになるための基礎的な英語力の養成を目指す。 釧路高専教育目標(F)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	週1回のペースで年間15回、英検単語集から出題する「単語テスト」を行う。年間3回(7月上旬、11月下旬、2月中旬)、英語検定形式の実力試験である「英検テスト」を実施する。随時、理解度の確認のために様々な小テストを行う。1回の授業の中で、複数種の教材を使って活動を行う。				
到達目標	英語検定準2級レベルの英語に対応するために必要な英語力(単語・熟語や文法の知識、英文読解力、英語による表現力、聞き取り能力など)の基礎を習得できる。				
成績評価方法	定期試験の成績の平均を40%、英検の「単語テスト」の成績の平均を20%、「英検テスト」の成績の平均を30%、随時行う「小テスト」の成績の平均を10%として、その合計点を「英語」の成績とする。				
テキスト・参考書	テキスト: POWWOW ENGLISH COURSE 1 (文英堂) : 英検pass単語集3級・英検pass単語集準2級 (旺文社) 参考書 : プラクティカルジーニアス英和辞典 (大修館) : 英語の語源のはなし(研究社)				
メッセージ	授業では教科書以外にも多くの教材(プリント)を使用します。渡された教材はなくさないように、確実にファイル等に綴じ込んでおいてください。1年生の前期は、英語の基本事項の定着を図る期間と位置付けます。基本の再確認、基本からの学び直しに努めてください。				
授業内容					
授業項目			授業項目ごとの達成目標		
1. 教科書Lesson1, 2 2. 文法: 動詞、助動詞、名詞、不定詞、受動態 3. 速読用教材 4. リスニング用教材 5. 英語検定3級実践問題 6. 「3級単語テスト」No.1~5 *1. ~6. を並行して行う(21回)			1. 各レッスンの英文の概要を把握できる 各レッスンの英文を適切に読むことができる 各レッスンの英文を参考にして簡単な英文を作ることができる 2. 各文法事項の基本的な内容を理解できる 3. 与えられた時間内に文章の概要を把握できる 4. 英文を聴き、その発話内容を聞き取れる 5. 各設問の正答にいたるプロセスを理解できる 6. 単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える		
前期中間試験			実施する		
1. 教科書Lesson3, 5 2. 文法: 完了形、分詞、関係代名詞、前置詞接続詞 3. 速読用教材 4. リスニング用教材 5. 英語検定3級実践問題 6. 「3級単語テスト」No.6~8 *1. ~6. を並行して行う(23回) 7. 第1回英検テスト(1回)			1. 各レッスンの英文の概要を把握できる 各レッスンの英文を適切に読むことができる 各レッスンの英文を参考にして簡単な英文を作ることができる 2. 各文法事項の基本的な内容を理解できる 3. 与えられた時間内に文章の概要を把握できる 4. 英文を聴き、その発話内容を聞き取れる 5. 各設問の正答にいたるプロセスを理解できる 6. 単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える		
前期末試験			実施する		
1. 教科書Lesson6 2. 文法: 不定詞、分詞 3. 速読用教材 4. リスニング用教材 5. 英語検定準2級実践問題 6. 「準2級単語テスト」No.1~3 *1. ~6. を並行して行う(20回) 7. 第2回英検テスト(1回)			1. 各レッスンの英文の概要を把握できる 各レッスンの英文を適切に読むことができる 各レッスンの英文を参考にして簡単な英文を作ることができる 2. 各文法事項の意味を理解し適切に使用できる 3. 与えられた時間内に文章の概要を把握できる 4. 英文を聴き、その発話内容を聞き取れる 5. 各設問の正答にいたるプロセスを理解できる 6. 単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える		
後期中間試験			実施する		
1. 教科書Lesson7, 8 2. 文法: 動名詞、関係詞 3. 速読用教材 4. リスニング用教材 5. 英語検定準2級実践問題 6. 「準2級単語テスト」No.4~7 *1. ~6. を並行して行う(23回) 7. 第3回英検テスト(1回)			1. 各レッスンの英文の概要を把握できる 各レッスンの英文を適切に読むことができる 各レッスンの英文を参考にして簡単な英文を作ることができる 2. 各文法事項の意味を理解し適切に使用できる 3. 与えられた時間内に文章の概要を把握できる 4. 英文を聴き、その発話内容を聞き取れる 5. 各設問の正答にいたるプロセスを理解できる 6. 単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える		
後期末試験			実施する		

建築学科		美術				
学年	第1学年	担当教員名	加藤直樹			
単位数・期間		2単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目
授業の目標と概要		想像力を働かせて、自分の表現を作り出す。 「色をつくること」からはじめて、教室内外での制作中心の授業。 物をつくることが集中してできるようになりたい。 高専教育目標 A1				
履修上の注意 (準備する用具・ 前提となる知識等)		画用紙や絵具等の画材を忘れないこと。 少々汚れてもよい服装が望ましい。				
到達目標		絵を描くことやデザインを考えること(=物をつくること)を楽しむことができる。				
成績評価方法		年間で5~6点の作品を必ず提出することを前提に、制作への取り組み、出来上りを総合評価する。テストはなし。 作品の完成度(60%) + 授業態度(努力の姿勢)(40%)				
テキスト・参考書		美術 - その精神と表現(現代美術社刊)を貸し出し制で使用する。				
メッセージ		美術制作の楽しみ方を私と一緒に考えよう。				
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
1	ガイダンス	「物を見る」とはどのようなことか等	2回	・物を見ること、描くこととは何かを考えることができる。		
2	色をつくる	三原色から無限に色をひろげる	6回	・三原色からたくさんの色が作れることを知ることができる。		
前期中間試験			実施しない			
3	色づくりから表現へ	簡単な抽象画を描く	3回	・色をつくることの延長から、絵(抽象画)への発展を行うことができる。		
4	学校内の風景を描く		4回	・生活空間と自分の関係を描くことができる。		
前期期末試験			実施しない			
5	ベーシックデザイン		7回	・レッスンにより構成の工夫と色の組み合わせができる。		
6	自分を描く		1回	・自分や友達の表情、姿を描くことができる。		
後期中間試験			実施しない			
7	仮面をつくる		6回	・段ボールからおもしろい表情のお面を考えることができる。		
8	竹とんぼをつくる		1回	・切り出しナイフを使って作ることができる。		
後期期末試験			実施しない			

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 建築学科			数学A			
学年	第1学年	担当教員名	清野光夫, 阿部義美, 片山芳郎			
単位数・期間	4単位	週当たり開講回数	2回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	数学的な考え方や数式の計算技能を深め、方程式・不等式の解法を学ばせ、関数の概念を理解させる。関数の基本的な性質を習得させ、第2学年からの微分・積分に備える。 釧路高専目標(C)					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	当り前のことであるが、教科書・ノート等を忘れず持参し、授業の内容をきちんとノートをとることが大切である。授業で指示された問いや練習問題を必ず自学自習し、時間の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求めよ。					
到達目標	基本事項と数学的な考え方を十分理解でき、教科書および補助教材の問題の60%は自分の力で解けるようにできる。					
成績評価方法	試験の点数の総合計によって評価する(100%)。詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。					
テキスト・参考書	教科書：新訂 基礎数学 (大日本図書) 補助教材：新編 高専の数学1問題集 (森北出版) 参考書：新課程チャート式基礎と演習数学I+A, II+B(数研出版)					
メッセージ	授業の内容を十分に理解するためにはノートをきちんととり、積極的に質問するように努め、さらにあとで必ず復習することが大切である。 ノートは数学Bと別にすること。					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
ガイダンス(0.5回) 第1章 数と式の計算 (1) 整式の計算(7回) (2) いろいろな数と式(7.5回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・整式の四則計算ができる。</li> <li>・展開公式、因数分解ができる。</li> <li>・因数定理を利用して高次式の因数分解できる。</li> <li>・分数式の四則計算ができる。</li> <li>・絶対値をはずすことができる。</li> <li>・平方根の計算、分母の有理化ができる。</li> <li>・複素数の四則計算ができる。</li> <li>・複素共役、絶対値が求められることができる。</li> </ul>			
前期中間試験			実施する			
第2章 方程式と不等式 (1) 2次方程式(6回) (2) 恒等式と等式の証明(2回) (3) 不等式とその証明(6回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式の判別式を利用して解を判別できる。</li> <li>・2次方程式の解と係数の関係を身につけている。</li> <li>・基本的な方程式が解ける。</li> <li>・恒等式などの等式を説明できる。</li> <li>・等式の証明ができる。</li> <li>・1次、2次不等式を解くことができる。</li> <li>・不等式の証明ができる。</li> </ul>			
前期期末試験			実施する			
第2章 方程式と不等式 (4) 不等式(2回) 第3章 関数とグラフ (1) 2次関数(5回) (2) 分数関数(3回) (3) 無理関数(3回) (4) 逆関数(2回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の用語・記号が使える。</li> <li>・命題の真偽を判断できる。</li> <li>・命題の逆・裏・対偶を作成できる。</li> <li>・1次、2次、分数、無理関数のグラフがかけられる。</li> <li>・2次関数の最大値・最小値を求めることができる。</li> <li>・2次方程式、不等式を解くことができる。</li> <li>・グラフの平行移動、対称移動ができる。</li> <li>・逆関数を求めることができる。</li> </ul>			
後期中間試験			実施する			
第4章 指数関数と対数関数 (1) 指数関数(7回) (2) 対数関数(8回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・指数法則を用いて、いろいろな指数計算ができる。</li> <li>・指数関数のグラフがかけられる。</li> <li>・指数方程式・不等式が解ける。</li> <li>・対数計算ができる。</li> <li>(以下、時間が足りない場合は2学年で学習する)</li> <li>・対数関数のグラフがかけ、対数方程式・不等式が解ける。</li> <li>・常用対数を利用して、各種の問題を解くことができる。</li> </ul>			
後期期末試験			実施する			

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 建築学科			数学B			
学年	第1学年	担当教員名	山崎俊博, 林義実			
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	専門学科ですぐ必要となる三角関数の基本的な性質・公式・グラフを理解し、応用する力を養わせる。 後期後半では平面図形のうち直線の方程式を学習させる。 釧路高専目標(C)					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	当り前のことであるが、教科書・ノート等を忘れず持参し、授業の内容をきちんとノートをとることが大切である。授業で指示された問いや練習問題を必ず自学自習し、時間の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求めよ。					
到達目標	基本事項と数学的な考え方を十分理解でき、教科書および補助教材の問題の60%は自分の力で解けるようにできる。					
成績評価方法	試験の点数の総合計によって評価する(100%)。 詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。					
テキスト・参考書	教科書：新訂 基礎数学(大日本図書) 補助教材：新編高専の数学1問題集(森北出版) 参考書：基礎と演習数学I+A, II+B(数研出版)					
メッセージ	授業の内容を十分理解するにはノートをきちんととり、積極的に質問するように努め、さらにあとで必ず復習することが必要である。ノートは数学Aと別にすること。					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
ガイダンス(0.5回) 第5章 三角関数 (1) 鋭角の三角比(1.5回) (2) 鈍角の三角比(2回) (3) 三角比の相互関係(1回) (4) 三角形への応用(2回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・鋭角・鈍角の三角比を求めることができる。</li> <li>・三角関数表を使って簡単な応用問題が解ける。</li> <li>・正弦定理、余弦定理を利用して、辺や角を求めることができる。</li> <li>・三角形の面積を求めることができる。</li> </ul>			
前期中間試験			実施する			
第5章 三角関数 (5) 一般角と弧度法(2回) (6) 三角関数とその相互関係(2回) (7) 三角関数のグラフ(4回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・弧度法と60分法との相関ができる。</li> <li>・一般角の概念を身につけている。</li> <li>・三角関数の性質・相互関係を説明できる。</li> <li>・三角関数のグラフがかけられる。</li> <li>・三角方程式、不等式を解くことができる。</li> </ul>			
前期期末試験			実施する			
第5章 三角関数 (8) 加法定理(2回) (9) 加法定理の応用(5回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法定理、2倍角、半角の公式を利用して三角関数の値を求めることができる。</li> <li>・和・差と積の変換ができる。</li> <li>・正弦と余弦の2つの三角関数の合成ができる。</li> </ul>			
後期中間試験			実施する			
第6章 図形と式 (1) 点と距離(3回) (2) 直線(5回)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・2点間の距離、内分点・重心の座標を計算できる。</li> <li>・直線の方程式を求めることができる。</li> <li>・2直線の平行・垂直の関係から直線の方程式を求めることができる。</li> </ul>			
後期期末試験			実施する			

建築学科		建築一般構造				
学年	第1学年	担当教員名	三森敏司			
単位数・期間		1単位	週当たり開講回数	1回	後期	必修科目
授業の目標と概要		建築の専門分野を知るための入門的科目であり、主に木構造の設計・施工および管理のための基礎知識を養う。我々の身近にある建築物の構築方法を材料別に解説し、各部の構築方法を明らかとする。 釧路高専目標(D)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		構法に関する簡単なトレーシング演習を数回行うので、定規を持参すること。				
到達目標		木造建築に用いられる基本用語について解説し、構法が把握できる。 建築材料がどのような考え方、どのような仕組みで建築物に構成されているのか理解し、説明できる。				
成績評価方法		合否判定：定期試験（後期中間40%＋学年末60%）の平均が60点以上。 最終評価：定期試験の平均（80%）と演習（20%）の合計。				
テキスト・参考書		教科書：図解・木造建築入門（井上書院） 教科書：構造用教材（日本建築学会） 参考書：大学課程建築構造学（1）（オーム社）				
メッセージ		身の回りにあるものすべてが建築に関係しています。どんな材料を使ってどんな方法で造られているのかを考えながら行動しよう。				
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験			実施する			
前期期末試験			実施する			
1. ガイダンス（1回） 2. 建築と構法，主体構造とその分類（1回） 3. 地盤と基礎（2回） 4. 木材の性質（1回） 5. 木材の接合（1回） 6. 木構造の基礎（1回）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の目的が理解できる。</li> <li>・建築物，建築構法，主体構造とその分類がわかる。</li> <li>・地形と地層，地盤調査，地盤の掘削，凍結深度，各種基礎などが理解できる。</li> <li>・木材の特徴・性質・用途などが理解できる。</li> <li>・接合法の一般的原則，継ぎ手と仕口，接合部の補強がわかる。</li> <li>・木構造で使用される基礎が理解できる。</li> </ul>			
後期中間試験			実施する			
7. 軸組（1回） 8. 床組（1回） 9. 小屋組と屋根（2回） 10. 仕上げ（1回） 11. 室内の造作（1回） 12. 階段（1回）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨組みの計画及び壁を構成する土台，柱，筋かい，胴差し及びこれらの間にある構造部分がわかる。</li> <li>・階下床と階上床の仕組みが理解できる。</li> <li>・和小屋・洋小屋の特徴，小屋組の構成と屋根の形や屋根排水の目的が理解できる。</li> <li>・内外装下地と仕上げについて理解できる。</li> <li>・和風室内の内法材，洋風室内の幅木，枠回り，腰壁などがわかる。</li> <li>・階段の形式と寸法などが理解できる。</li> </ul>			
後期期末試験			実施する			

建築学科		図学				
学年	第1学年	担当教員名	井上圭一			
単位数・期間		1単位	週当たり開講回数	1回	後期	必修科目
授業の目標と概要		建築技術者に必要な作図法の理解し、正確な作図を行うための基礎的な力を身につけることを目標とする。 毎回の講義において演習問題を行う。 釧路高専目標(C)50%(D)50%				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		三角定規1組、コンパスを各自準備する。その他の製図用具も準備することが望ましい。 演習問題を、毎回の講義で行うので、内容を理解して作図する。 正確、丁寧な作図を行うように常に心がける。				
到達目標		平面図学、立体図学の基礎的な作図法を理解できる。軸測投象、透視投象の作図ができる。 定規とコンパスを用いて、正確、丁寧な作図ができる。				
成績評価方法		定期試験2回の成績(50%) + 提出課題(50%) 課題については、作図の正確さと丁寧さについて評価する。				
テキスト・参考書		教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。 参考書：井野ら「基準課程 図学」 共立出版 山田 「建築とデザインのための図形科学」培風館 福永 「図学概説」培風館				
メッセージ		主にプロジェクトを使用し、講義を進める。 講義の内容は、毎回の積み重ねになるので、1回1回の講義に集中して、理解する努力をして欲しい。 配布プリント、製図用具など忘れないように注意して欲しい。				
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験			実施しない			
前期期末試験			実施しない			
1. ガイダンス(1回) ・シラバスについて・作図に用いる線の種類 2. 平面図学(1回) ・基礎的な平面図学の作図法 3. 立体図学(点と直線)(5回) ・立体(第1~4象限)の把握、投象の概念 ・点の投象、直線の投象 ・直線の実長、傾角(回転法、副投象法)、跡点			・線の種類の違いを理解し、使い分けができる。 ・基礎的な平面図学の作図ができる。 ・立体(第1~4象限)の把握し、回転法、副投象法により、直線の実長、傾角を求めることができる。 跡点の意味を理解し、作図で求めることができる。			
後期中間試験			実施する			
4. 立体図学(陰影)(2回) ・直線、平面形の影 ・立体の立面図、平面図 5. 軸測投象と斜投象(2回) ・アクソメ図、アイソメ図の作図法 6. 透視投象(3回) ・透視投象の原理 ・消点を利用した透視図の作図			・陰影の作図法を理解出来る。 ・立体の立面図、平面図の作図法を理解出来る。 ・アクソメ図、アイソメ図の作図法を理解し、作図ができる。 ・透視投象の原理を理解し、消点を利用した作図ができる。			
後期期末試験			実施する			

建築学科		建築概論				
学年	第1学年	担当教員名	依田有康			
単位数・期間		1単位	週当たり開講回数	1回	前期	必修科目
授業の目標と概要		社会と建築家・建築技術者との関わりを通じて、「建築とは何か」を理解する。 また、建築学の各分野、すなわち計画、歴史、材料、構造、施工などの概要を知り、建築の基礎的知識を身につける。 釧路高専目標A(20%),C(80%)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		配布プリントを紛失しないこと。 評価に関連する課題回数は、5回程度あるため真面目に取り組むこと。				
到達目標		建築の各分野を理解でき、建築家、技術者の職能をきちんと理解できる。				
成績評価方法		2回の定期試験の結果の平均(70%)とレポートの結果(30%)の合計により最終評価を行う。合否判定も同様の内容で行う。				
テキスト・参考書		参考書：「建築設計製図」(実教出版)、「建築を知る」(鹿島出版会)、「住居学入門」(学芸出版社)、「初めての建築構造デザイン」(学芸出版社)など				
メッセージ		この講義から日常的に建築を意識し、建築を学ぶ心が育つことを期待する。				
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
1. ガイダンス、建築学とは(1回) 2. 好きな建築レポート(紹介とコメント)作成(2回) 3. 建築鑑賞入門(北海道の建築:Web)感想文(1回) 4. 住まいの計画から完成まで(3回) 5. 有名建築家の住まいづくり(1回)			計画系と構造系、職業としての広がり等、建築学の広がりを理解できる。 建築雑誌による検索方法を習得できる。 建築の見方を理解できる。 住宅づくりの過程を理解できる。 建築家の職能を理解できる。			
前期中間試験			実施する			
6. 建築計画の役割とプロセス(1回) 7. 建築図面の役割・表現(2回) 8. 建築構造の概要(1回) 9. 建築生産の一般的過程(1回) 10. 建築環境について(1回) 11. 講義の総復習(1回)			企画・設計・施工の流れを理解できる。 図面作成の留意点を理解できる。 構造計画の意味、RC造、鉄骨造の特徴を理解できる。 一般的ビルの建設過程を理解できる。 地球にやさしい環境デザインについて理解できる。 建築の基本的用語を理解できる。			
前期期末試験			実施する			
後期中間試験			実施しない			
後期期末試験			実施しない			

建築学科		コンピュータリテラシー				
学年	第1学年	担当教員名	井上圭一, 大槻香子			
単位数・期間	1単位	週当たり開講回数	1回	前期	必修科目	
授業の目標と概要	コンピュータの基本操作や代表的アプリケーションソフトの操作を習得することにより、情報技術に関する基礎知識を身につける。また、WWWの利用により、効率よい電子媒体での情報収集方法を知ることはもちろん、ネットワーク上のマナーや知的所有権などの問題を理解する。さらに情報機器を利用したプレゼンテーション方法を習得する。 釧路高専教育目標(C)					
履修上の注意 (準備する用具・ 前提となる知識等)	情報処理センター第2演習室を使用するので、移動時間を考慮しすみやかに集合待機すること。キーボード、マウスの使い方、文字入力程度の操作は出来る事を前提に講義を進める。パソコンによる演習課題が中心となるので各自パソコンでの予習復習を心がけ、不明点を残さない。					
到達目標	WindowsXPとその代表的アプリケーションソフトの基本操作ができる。 インターネット、ネットワーク利用に関するモラルやマナー、知的所有権等を理解する。インターネットを利用した情報収集、情報発信ができる。 パソコンを利用した資料作成と発表ができる。					
成績評価方法	全演習課題の評価平均点(50%) + 2回の定期試験平均点(50%)。 合否判定も同様に行う。					
テキスト・参考書	速攻!パソコン講座ウィンドウズXP(毎日コミュニケーションズ);教科書 速攻!パソコン講座ワード(毎日コミュニケーションズ);教科書 自作テキスト;教科書					
メッセージ	パソコンの基本的な操作とインターネットによる情報収集は、多くの講義で必要となります。しっかりと基礎を身につけましょう。提出物は期限を守り、未提出課題を作らないようにしましょう。					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
1) パソコンの基本(3回) コンピュータリテラシーとは/計算機環境 パソコンの基本操作/日本語入力、タイピング ファイルの作成・編集・印刷 2) インターネット(3回) インターネットの仕組み WWWブラウザ設定と利用方法/上手な情報検索 3) 電子メール(1回) 電子メールの設定と送信・受信/ファイルの添付			1) 授業目的が理解できる。使用するパソコンの部位名称と基本的な機能を説明できる。日本語入力により作成したファイルを印刷、保存、移動、複写できる。 2) インターネットの仕組みを理解できる。校内における情報処理センターの規約とサービスを知り、情報処理センターへのユーザ登録等の設定を行う。WWWを利用した情報検索ができる。 3) 電子メールの設定、仕組み、基本操作を知り、利用することができる。			
前期中間試験			実施する			
4) ネットワークのエチケット(1回) エチケットとは/知的所有権 5) ワープロ(4回) ワープロの機能/文章入力/表の作成/図形作図 6) プレゼンテーション(2回) スライドの作成と実行			4) インターネットを利用する上での注意点を理解し、ネット上でのトラブル対処ができる。 5) MicrosoftWordを利用した文書作成、書式設定、文字編集および適切な図表が作成できる。 6) MicrosoftPowerPointでプレゼンテーション用スライドの作成とそれを使った発表ができる。			
前期末試験			実施する			
後期中間試験			実施しない			
後期末試験			実施しない			

建築学科		建築製図				
学年	第1学年	担当教員名	佐藤彰治			
単位数・期間	2単位	週当たり開講回数	1回	通年	必修科目	
授業の目標と概要	建築空間を具体的に表現する能力を養う。1年次では、既成図面のトレース（模写）が中心となる。この中で製図用具の使用方法、建築設計図面の種類及び基本的製図法および知識を習得する。本校学習教育目標（D）					
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	毎回、製図用具一式を持参し、建築製図室で演習を行う。					
到達目標	図面の種類を覚え、基本的製図法を理解できる。縮尺（スケール）の概念を理解できる。丁寧に正確な作図作業が出来る。					
成績評価方法	演習課題の評点の平均値（90%）、授業態度（10%）とする。 各課題の評点は、寸法の正確さ30%、丁寧さ40%、線の質・濃淡20%、提出期限10%					
テキスト・参考書	教科書 - 建築設計製図（検定教科書） 参考書 - コンパクト建築設計資料集「住宅」（丸善） 木造住宅の断面設計（彰国社）					
メッセージ	授業中のみで、課題を書き上げる努力をする。すなわち、丁寧さや正確さだけでなく、スピーディーに作業をすることも学んで欲しい。					
授業内容						
授業項目			授業項目ごとの達成目標			
1. 製図器具の使用法、線引き練習（1回） 2. 製図規約、図面の種類の説明（1回） 3. 簡単な図形、図面のトレース（2回） 4. 平面図（RC造住宅）のトレース（5回）			1. 製図器具の手際よく使用できる。 2. 建築図面の種類、尺度の概念、寸法の書き方が理解できる。 3. 線の濃さ（太さ）を変えて描くことができる。 投影図の概念が理解できる。 4. 平面図の基本的製図法が理解できる。			
前期中間試験			実施しない			
5. 平面図（木造住宅1階）のトレース（6回）			5. 木造平面の柱、壁その他細部の構造と描き方が理解できる。			
前期期末試験			実施しない			
6. 平面図（木造住宅2階）のトレース（3回） 7. 立面図・断面図（木造住宅）のトレース（5回）			6. 木造平面の柱、壁その他細部の構造と描き方が理解できる。 7. 立面図と断面図の基本的製図法が理解できる。			
後期中間試験			実施しない			
7. 実測による住宅（居室）の図面製作（7回）			7. 図面から実在の建物や空間・家具などのスケール感覚をイメージすることができる。			
後期期末試験			実施しない			